



令和4年度 西五百川小学校だより

ポ プ ラ

第3号 令和4年6月14日 校長 鈴木正直

勝っても負けても 堂々としておれ!



6月3日（金）相撲大会が、たくさんの方々に見守られながら開催されました。3年連続の激しく降る雨を見上げ、「これは、どんな状況であろうとも、明るく、元気に、一生懸命やれるかということ、天に試されているのかもしれない。ようし！」そう思いました。子ども達は、その期待通りに気迫あふれる相撲を取りました。本気の姿は美しいものです。全力でぶつかり合う、たくましい姿に感動し、拍手と笑顔にあふれました。

相撲は、四股を踏み、世の災いを大地に鎮め、大地に眠るエネルギーを呼び起こします。また、行司の掛け声「はっけよい！」は、発気揚々や発揮揚揚を語源として、

「気を盛んに出して、勝負しなさい！」という意味があり、「のこった！」は「まだ終わっていない、粘り強く最後まで続けなさい！」という意味があります。みんな勇気をもって、互いに闘志を全身で表現し、体をぶつけ、受け止めながらカー杯相撲を取りました。すばらしかったです。がんばろうとするお互いの力を感じ合えたことで、ますます友情が深まったようです。幕内力士と横綱の土俵入り、行事や呼び出しも立派でした。全ての取り組みが終わり、弓取りの時には空が晴れました。相撲の醍醐味をたっぷりと味わえた、まさに天晴（あっぱれ）な相撲大会となりました。雨にぬれながらも、たくましい姿と清々しい晴れやかな笑顔が印象的でした。

また、相撲の先生として、佐竹亮一様（松程）、鈴木敏広様（松程）、菅井道也様（和合）からは、作法や相撲のとり方、土俵入り、弓取り、行司や呼び出しの仕方など、子ども達に寄り添いながら熱心に丁寧に指導していただきました。さらに、大井みちよ様（常盤）からは、全校生と職員に心のこもった手編みの草履が寄贈され、この日ありがたく履かせていただきました。一冬かけて、子ども達の成長を願いながら編んでくださる姿が見えてきそうです。心より感謝申し上げます。

形は心！ その心意気 見えた！ たくましく育て！

つないだ友情! ～町陸上記録会



5月18日(水) 町内5・6年生79名が参加し「朝日町小学校陸上競技記録会」が、西小グラウンドで開催されました。さわやかな若葉に囲まれた絶好のコンディションの中、やる気に満ちた顔、全力でやり切ったその笑顔が輝いていました。子ども達の一生懸命な姿に感動しました。選手一人一人に大きな金メダルをかけてあげたいと思います。

目標を立て、毎日の練習を励まし合って、みんなの力で困難を乗り越えてきました。そして、強くたくましくなりました。目標に向かって努力したり、協力したり、夢中になって競技したり、み



んなのために精一杯の声で応援したりすることは、本当に素晴らしいことです。壮行式では、下級生からの熱いエールをもらったおかげで、強い決意が持てました。家族や友達、たくさんの方々に応援してもらいました。あの緊張感の中で「より速く、よく高く、より遠くへ!」自己ベストに向かって精一杯挑戦できたことに自信と誇りを持ってください。勝っても負けても、自己ベストを出せても出せなくても、一生懸命に走って、跳んで、応援した、がんばった自分をほめてください。力を尽くし、心を寄せ合い、一つになることが大切なんだということを、改めて感じさせられたすばらしい陸上記録会でした。がんばることは、カッコいいし、みんなが笑顔になれるのですね!

なかよく ファイト!!

5年 白田愛亜

今日は、いよいよ町陸上記録会です。はじめに100M走でした。練習より本気を出して走ったけど、緊張して笑いそうになりながら走りました。もう少しできたら抜かせるかもしれなかったの、もう少し練習したかったです。次に長距離走でした。短距離走より少しゆっくり、マイペースで走りました。最後までペースの乱れなく走れたので嬉しかったです。リレーは出られなかったけど、精一杯応援しました



6年 大井涼太

小学生最後の陸上記録会で、100mの順位は6位だったけど精一杯がんばれました。走り幅跳びでは最初にファールになって記録が無くなったらどうしよう



と不安にもなったけど、これまでの練習の成果を発揮して、自分ができる限りの記録を出すことができました。リレーでは負けてしまったけれど、それぞれが全力を出して頑張れたので良かったです。

感謝！ 宗生文庫 41年目

5月17日（火）宗生文庫の本選びをしました。みんな、ホールに並べられたたくさんの本から、読んでみたい本を手にして大喜びでした。おかげさまで、西小の子ども達は本が大好きです。



「宗生文庫 ってなあに？」

常盤地区の故阿部宗一郎さん（朝日町名誉町民で株式会社朝日相扶製作所の創業者）から寄贈された図書のことです。宗一郎さんが小学生のころは、町に本屋がなかったため、読みたい本を自由に読むことができなかったそうです。だから朝日町の子供達には「たくさんの本を自由に好きなだけ読んでもらいたい。自分の一冊を持つ喜びと、その本をもとに友達と交流することの楽しさを伝えたい。そして、本との出会いを通して人間性豊かな人に育ててほしい」という阿部宗一郎さんの深い想いと、ふるさとの子供達への限りない愛情から生まれた文庫です。昭和57年から西小へ



の寄贈が始まりました。今年で41回目となりました。平成28年度からは、宮宿小、大谷小にも寄付されることになり、町内すべての小学生にプレゼントされています。全校児童が毎年一人一冊、自分の好きな本を選び、その本を買っていただいています。



阿部宗一郎さんの思いを大切に!

朝日中学校の玄関前にも「考える人」のブロンズ像が寄贈されています。その台座には、

「**人生は、あなたの考える質と量によって決まる**」と刻まれています。

“考える人”像の詩

阿部 宗一郎

この考える人の像は あなたのもう一人の姿です あなたは問もなく 自分の力で生きなればの
あなたの時間が始まります 支えてもらった人生から 支えるひとになる人生です
しかし その時代が今 恐ろしいことに悲しいことに 考える人から考える電子の時へと 移りつつあります
電子が人間を支配し始めたのです そこであなたのもうひとりの私は こうしてここで もうひとりのあなたと
毎日言葉を交わし手をとりあい 道を見失ったら道を探し 答えが出なかったら答えを考え
悲しいときには涙を流し ひとりぼっちの時には肩をたたく 誰かにありがとうをいわれたら
抱き合ってよろこび うれし涙をめぐい合う そういうあなたと私になれたくて ここに出てきたのです
これから日々の朝に夕に お互い声をかけ手をとりあって 生きた価値ある人生の 詩を書いていきましょうね

2015年7月